

新潟県公民館月報

発行人
新潟県公民館連絡協議会
新潟市寄居町
越後自治会館内(電 2-7954番)
振替口座 新潟 4094
二月号 (49号)

先細りの社会教育費

殆んどが市町村負担

文部省では来年度、助成費から補助金を地方へ出すを考えているが、………うであるが、二月四日の日本教育新聞は、次のように報道している。………

文部省では社会教育の振興に力配っている。同じように国が支出を注ぐ為三十二年度予算の大幅増している補助金も次第に減少して額を減したが、結局社会教育施設費、スポーツ振興費などに今年度予算より三千二百万円の増額を見込んでいる。一方地方教育費における社会教育費は、地方財政の貧困が災いして、減少の傾向がかなり強い。

広報紙コンクール 彌彦公民館報一位(B5版) 目だつレベルの向上

第五回広報紙コンクール審査会 第一部(タブロイド版)

二位 広報紙(つ) 二位 新潟市政だより 三位 土地改良だより(藤田) 十日町市政だより 広報おかしま

佳作、広報おかしま、そのき、(中瀬) 町報だより、真野公民館報、新井田市政だより、新郷報、津南まちだより

二位 館報やひて 二位 柿崎町だより 板倉公民館報 三位 広報おかしま

ゆめ 三島町館報 まき(登) 黒川村公民館だより

三位(札幌) 一位 たち(西須名立町) 二位 日報館報 二位 大塚だより(二和村) 佳作 六日町館報 青年の窓(長岡市) 十日町地区だより

北海道東北 フロツク公連

一月一日から発足す

これまで各市の甲合せ会としてもて来た東北フロツクの公民館連絡協議会を、はつきり規約をもち、全公連に厚応し、東北の地域性を重視して公民館の振興を計るための組織に代えようとする懸案が実を結び、一月一日を期して北海道、東北フロツク公民館連絡協議会が発足した。

主たる事業は、フロツク公民館研究協議会の開催、公民館運動に関する資料情報の交換などである。

成人教育から青年学級、婦人学級、さらには視聴覚教育、社会体育と並んでおり、教育振興上、決して軽視できないものからわす活動が地味であるだけに学校教育のように自由な活動に、社会教育費の削減の憂しさがあてはまる向きもある。

しかし、社会教育費の殆んどを負担している地方財政がこのままの傾向で下降してゆくのでは、社会教育の速急な充実が望めないであらう。



ああそれ
なのに……

日誌

◎一月(藤巻(坂倉 梅山(倉津津) 二十九 飛田(高田) 内藤(高田) 山岸日(火) (糸魚) 宮崎(香海) 磯谷(職員研 能生 星野(牧 甲田(奥) 木修(つ) 村(奥)

ての研究 ◎二月十三日(水) 会、場所 富内公民館訪問、出席・田中 会、場所 富内(宮内) 松崎(宮内) 水橋(長 書館、出席(指定参加) 小杉(奥) 甲田(奥) 木村(奥) 村上(奥) 松本(宮附) 熊倉(初尾) ◎三月四日(金) (石川(弥彦) 杉野(新井) 佐 奥公民館幹事会、場所・栗立野(十日町) 佐藤(湯野) 甲田 書館 (奥) 木村(奥)

◎三月六日(八日) 公民館ゼミナール、場所・直 彦村 江津市中央公民館、出席(指定 参加) 内藤(吉川) 関根(大湊 各地で開催される予定す。

規約によると、会長は前年の青森県食糧が、長(正和三十三年は秋田県)副会。

社会教育費の大部分は国、都道府県、市町村のいわゆる公費補助金によつてまかなわれているが、とくに市町村の負担が全体の九割以上を占めている。

社会教育費が減少の一途を辿つている裏には、この市町村負担が地方財政の赤字増進のシツキを齎して削減されたことによる主な原因がある。また、社会教育に対する寄付や起債のワケがとれなかつたことにも原因があるようだ。

公費負担金の内訳をみると市町村が負担した金額は額は減少しているにもかかわらず、漸次市町村への依存の度合が高くなつて来ている。

その上、都道府県負担費を見るに、社会教育に対する負担金支出を

公民館報の参加も多く「館報やひて」が第二部(B5版)で一位。最後まで高田市と知事館を争つていた。なお成績次の通り

公民館報の参加も多く「館報やひて」が第二部(B5版)で一位。最後まで高田市と知事館を争つていた。なお成績次の通り

公民館報の参加も多く「館報やひて」が第二部(B5版)で一位。最後まで高田市と知事館を争つていた。なお成績次の通り

はじめに

一、鹿峰地区勤労青少年に対する社会教育
 施策の沿革

第一期 (昭和三十一年) 勤労青少年の教育施設として日曜青年講座、裁縫講座を開設。

第二期 (昭和三十一年) 青年学級振興法にもとづき、鹿峰青年学級を開設し、冬期間裁縫講座を併設した。二八、二九年度は全学区二会場で、三〇年度は飯田、中浦二会場一学級の開設

第三期 (昭和三十一年) 学級生の学習意欲を振起し、学級活動を活発にするため、生徒会活動、クラブ活動の促進を図るとともに、青年学級運営委員会

二、青年学級運営上の悩み

最大の悩みは「学級生が減少する」「出席率が低下する」ことで勤労青少年の教育参加の意欲を如何にして高めるかといふことに苦心した。

三、この悩みの根源を究明して

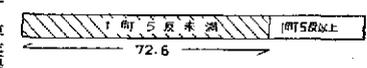
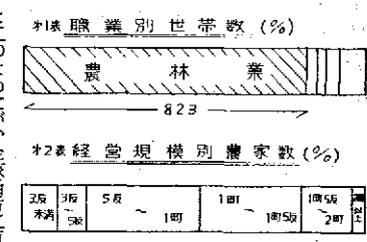
悩み解決の合理的な方法を見出すため、以下述べるような調査を実施し、資料の整備を図つた。

- ① 調査中、中学校卒業生に関する資料は、鹿峰中学同窓会より提供された。
- ② 実施に当っては、出来るだけ正確を期して、口頭調査を主体とし各種会合における談話や、個人との懇談により資料をつくること

における実態

吉 越 重 治

本稿は、下田村公民館で開かれた南浦青年学級研究会の席上、鹿峰中学校長吉越氏が発表したもので、青年学級運営上の問題の解決方法を見出すべ



① 職業別世帯数
 学区の産業構成と、経営規模別

② 経営規模別農家数
 農家数が第一、二表である。学区の世帯数六六一の中五四〇世帯、凡そ八〇〇余りが農林業で納税した農山村である。

③ 農家経営規模では、一・五町未満が七二・六〇を占めており、六〇を占めており、町歩以上は僅かに三〇未満である。

④ 中学校卒業後の動向
 高校以上の学校進学は極めて少ない。家事従業者の年度はあまりなく、凡そ五〇を占めている。就職して離村してゆく者が、卒業年度の占めが多い。専業主婦や専業主夫として、在村勤労青少年数が多いことは一考を要する。

⑤ 在村離村別青少年数 (第五表)
 最近四ヶ年間の中学卒業生の在村、離村状況であるが、約三分の二が在村しており、青年学級生が相当にのほろむことがわかる。離村の可能性と心算性の多い二男や女子が多く在村している。青年学級の性格にも十分な

⑥ 在村勤労青少年の教育参加状況 (第六表)
 青年学級に籍を有する者、四Hクラブ、洋裁学院、通信教育受講者等の合計が凡そ六〇〇に達し、特に男子においては参加率が多くなつておる。が、まだまだ実態はゆるぎない。

⑦ 在村勤労青少年の教育参加実績 (第七表)

職業	割合 (%)
農業	82.3

町区	割合 (%)
町5反以上	72.6

性別	参加者数	割合 (%)
男子	131	21.2
女子	62	10.3
合計	193	31.5

性別	参加者数	割合 (%)
男子	19.3	31.5
女子	7.3	12.0

進路	割合 (%)
23歳未満	81.4
25	10.1
26	13.6
30	21.9
37	12.8

職業	割合 (%)
23歳未満	51.3
25	46.8
26	8.7
30	22.1
平均	14.0

性別	在村者数	割合 (%)
男子	51.2	39.1
女子	47.4	46.2
合計	49.1	45.0

学年	在村者数	割合 (%)
三三年度	6.3	2.8
三二年度	5.9	2.5
三一年度	4.7	2.7
三〇年度	4.7	1.7
二九年度	2.1	1.9

⑧ 在村青少年の生活設計 (第九表)
 不振の途を辿る在村勤労青少年の教育参加実績を前年度に求めてみることにしよう。

項目	割合 (%)
① 一生の仕事として	87.5
② 二つ三つあり	24.0
③ 結婚を前提に	44.0
④ 職を口にする	60.0

※10表 青年学級に参加しない理由調査

①	②	③	不明
気味が行く	ついでに、 ついでに、 ついでに、	ついでに、 ついでに、 ついでに、	
回答分類	25.0%	45.0%	
男子	29.0%	49.0%	
女子	20%	60.0%	

「あなたは今何の仕事をしてますか、もう一つはありますか」といふ問いに對する返答である。
 ・長男の約九〇%が農業者で、農業を一生の仕事としてつづけている。本地域のように入守性の強い所としては当然とと思われる。
 ・しかし、二、三男階においては僅かに三分の一程度であり

鹿嶋地区 勤労青少年

南浦原郡田村館 運営審議委員
鹿嶋公下民

く行つた同地区における勤労青少年の実態調査である。青年団や青年学級を考へる場合、このような調査が、是非必要であらう。

● 始めから氣のない者がそれぞれ凡そ四分の一を占めており、その理由として

● 出て来ただけ早く他の職をみつめてかゝりたいと希望する者が半数を占めており
 ● 生の仕事となるような職がみつければ、かわりたいと希望する者が凡そ四分の一を合計する。凡そ七〇%が職を得て村外に自分の生活設計を立てたいと希望している。
 ● 女子においては、結婚するまでつづけるもの者が六〇%もあるのは、置かれてある位置と性格とが一致している。
 ● このように転出の機会をねらつていゝともいえる二、三男階の教育参加低率は、ゆるがせに出来ない問題である。

※11表 家庭が青年学級に参加しない理由

①	②	③	④	⑤	⑥
本人希望	家族希望	遠方	家族希望	本人希望	本人希望
回答分類	14.0	31.3	26.5		
男子	10.2	13.4	46.2		

● 遊び仲間集りのためではないから希望にそつちな施設がなされていないから
 ● 希望があつて出られない者が平等が主なものである。
 ● 遊伴仲間の集りと視察する傾向が、学区に数少い高校卒業者よりむしろ中学卒の青少年に多いことも問題である。



写真説明

● 鹿嶋間の録音テープ利用の青年学級
 ● 部落の夜学で十分
 ● 時間に余裕がない
 ● 等である。
 ● 鹿嶋村で、広地域である割に、経営規模の小さな学区の特殊事情が大きく働いている結果と見うが
 ● 人手不足ということが、教育不参加の理由として合理的であるかどうかが、

● 家庭が青年学級に参加させない理由(第十二表)
 ● 青年学級不参加者の父兄の考え方をたずねてみると、本人が希望しないと、家に入手がないとかの理由が強いのは今後の問題点である。
 ● それ以上に「早くから仕事を覚えさせて二人前にする」とか、「後継者としての独立体制を早

● 遊伴仲間の集りと視察する傾向が、学区に数少い高校卒業者よりむしろ中学卒の青少年に多いことも問題である。
 ● 施設整備の問題は比較的解決は容易と思われ。

農村青少年の社会意識

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
生活埋没型	現状肯定型	懐疑型	健康型	反抗型	逃避型	無関心型
18+	20+	20.8	29.1	25.0	12.5	
18+	20+	9.3	31.2	35.6	15.6	
男子	女子	7.1	76.8			
男子	女子	6.8	48.2		31.0	

● 比較的確拠型である。
 ● これは、農村の生産的、社会的環境から當然なことで、この意

● 空をさせているとは重大問題である。
 ● こうした現状下にある農村の青少年の社会意識はどんなものであつたか。県教育研究所の資料を借用して検討してみよう。

くとれるよう仕上げた」といふ父兄の考え方に問題がある。殊に生涯の職を教へて三男階に對して、漠然とした伝統的慣性的な考え方を学業の手伝い

● 青年学級運営上の障害点は、種々同教育研究所の調査による分類と比較してみると、
 ● 困難であり、従つてその打開は容易ではない。正しい調査資料には郡公連から一五〇〇円の補助が行われます。

● 期にある者が、二、三才位になると、二、三男階にいゝき若年寄めいて、若くは新鮮さに欠くる傾向にあるのは重大な問題である。
 ● 移動研究集会
 ● 秋田県本荘市田利郡青年学級生と公民館職員七〇名は、来る十三日秋田県青年学級を訪問し、その実情を視察すると共に、学級生との懇談会を行いました。同夜秋田に泊り、県教育技術課長、郷土公民館田利町事務所を巡り、鹿嶋青年学級の状況を交換し、翌十四日は新潟県内を回学して帰郷します。なおこれに参加する六〇名の学級生には郡公連から一五〇〇円の補助が行われます。

● 職に支えられて、農耕は保守的の青年学級運営上の問題点をすべて究明したと思はれないが、ただ次のようなことが言える。鹿嶋市域の人々は、自分の子弟の将来の地位に明確な見通しを持たず、二、三男階も、農村生活者としての道を歩いた期間が無駄骨折りであることも自覚せず、なるようになるだろうと云つた「出たど勝負」の安易感が働いている。
 ● 父兄が自覚せず、子弟はその父兄を頼り、地域社会も自覚せず、更に社会教育関係者が關心をもつて問題点を究明と打開に努力するのになつたら、ますます社会教育への参加は低率となつていく。

おわりに

婦人会はまたまた

一 万年役員・婆さま会か

十日町新聞社で調査

婦人会の組織が町から村のすまみまで伸びているが、しかし連年同じ役員で、多くの問題が残り、全員の活動の場となるには、婦人会自体は勿論、市町村当局や直接指導に当る地教委も大いに反省の必要があるようだ。

以下は、十日町新聞社が調べた十日町市中央区における婦人団体の実情である。

団体員数 最も大きな組織を持つのが地域婦人団体で、これは愛国婦人会の地盤の上に立つているもの。町村合併で、連合体制を整えていくが、殆んど旧町村別の単位で活動している。会員数は大まかには見て都市合計二万一千八百人。これは婦人有権者の七十七パーセント、全国平均の三十二パーセントよりも上廻り、全国の最高水準に近く、婦人会の組織が浸透していることを示している。これら地域婦人会の他に、農協婦人部、主婦人会、婦人学級、嫁と姑の会等あり、それぞれ活発な活動をしている。しかしこれらがお互に横の連絡をとり、それぞれの立場を強調しながら事業計画を立てているかどうかが、実際は連絡がななく、夫々独立しているものが多

「万年会長」「万年役員」を生む原因になっている。こんなわけで大部分は役員が少く、負担がかかり過ぎ、もつと小委員会制度をとり入れ、できるだけ多くの人が役について仕事に分担できるようにすることが望まれている。

事業 内容別にみると、婦人学級、母親学級、講演会、講習会、研究討論会、社会員学などの教育文化活動が全体の五十六パーセントを占めている。ついで敬老会、托児所、開成、貧困者救済、災害見舞、募金協力などの社会活動、野菜市場整備、諸行事の簡素化、計画産

婦人会以外の団体もメンバーは十九多まで重複加入で、多くが流行的な義理やつき合いで加入していると思われる。アパハとすし的な傾向にあり、会員としての責任も薄れ、団体活動の障害になっている場合が多い。

役員 選挙制をとっているところが七十多、任期は大体一年のものが多く、互選という安易な方法をとったり、「再選をせよ」といふという話しをきかずに、任期も少くない。したがって経済的にも時間的にもゆとりのある老齢が役員になることで、若くは

全国的公民館大会についてのニュースが入りました。勿論確定的なものではありませんが、御知るところに致しませぬ。

全国公民館大会

九州・別府市 予定
五月八日～十日

全国的公民館大会についてのニュースが入りました。勿論確定的なものではありませんが、御知るところに致しませぬ。

全国的公民館大会についてのニュースが入りました。勿論確定的なものではありませんが、御知るところに致しませぬ。

全国的公民館大会についてのニュースが入りました。勿論確定的なものではありませんが、御知るところに致しませぬ。

全国的公民館大会についてのニュースが入りました。勿論確定的なものではありませんが、御知るところに致しませぬ。

児の実行などが新へんの上り方と、自主的、積極的な婦人団体に脱皮するの道いことを語つてゐる。しかし、事業のやり方が「教養を高める」という抽象的なものになり、年齢、学歴職業などの差を考慮し、共通の仕事をしようにするから、年個人事のアプローチをとり、形だけしかやになつたりしている。参加者の若い小集団活動が今年ばかりに目立ち、こういった意味、期待されている。以上の実状について、

図書館補助金決る

十一館に三十五万余也

文部省社会教育局長より、公民館図書館補助金の決定が通知され、それぞれ交付方針に委嘱された本県分安のとおり(単位百円)

三栄市(録音機) 二二二
村上(映写機) 四〇〇
新津市(シン) 九五

東京(映写機) 四〇〇
金井村() 四〇〇
三島町() 四〇〇

守門村() 四〇〇
大和村() 四〇〇
中興村(シン拡声機) 一〇〇

吉川町(映写機) 四〇〇
大江山村() 四〇〇
計十一館 三三三〇

県・本会共催

職員講習会開催

三月六七八日開催

例年の公民館職員講習会は、いよいよ五月六・七・八の三日間、

研修、開催される事になった。今回は、町村合併後、新たに公民館活動に参加された職員を主な対象とし講師は、実践面に詳しい成果を

見せている方々をお願いする事になった。詳細は、すでに各教委委員会連絡してあるとおり、次号にはその成果を紹介する。



◎教材映画新着紹介
★「楽しいオーケストラ」
「ひょうしー」二分、小
学校高学年及中学の音楽一般
成人の教養(以前作られた「
オーケストラの楽器」に続いて
製作された音楽シリーズの一本
である。本稿は音楽の拍子につ
いて平易に説明し、音楽感の上
に役立つ内容をもつている。佐
★「雲一てきたかたわ
中一年単元・一般成人向、一般
て無い。小鳥のおじ
★「五匹の子猿達」一八
分、幼児を含めた全般向(伴上
の五匹の兄弟猿があつた、毎
日暮しを繰り替へていたが
ある日、いじわるの狼が出現し
た)二分、小高学年
遂にみんなの遊び場に火をつけ
★「おあさんのしごと」
三分、小学校低学年の社会科
「おうちのお母さん」はこんな任
事をもつていられるでしょうか
よつて包んでくれる母でもあ
影によって、雲の動きを○倍
から百倍の早さで見せ、面白く
見せてくれる學術映画)下
★「日報二ユース」一三
号)全般向(○県選抜卓球選
手権大会)のソ連代表部チーフ
シンスキー氏来県(○飯沼内
スキー場)④日報スキー学校) 佐
新・上・中
★「食中毒」二分、小学
生中年以上一般向の保健衛生
(集団中毒の発生に、その原因
調査のための保健所員は活動する

その調査活動の足跡を映画の力
メラは追いかける。食中毒の原
因である牛の生糞の説明に併せ
てその伝染経路等も解説する。
U.S.S.R映画「病弱はどこにあ
るか」と兵(季節的にも重宝映
画の一片である。新・中
★「おあさんのしごと」
三分、小学校低学年の社会科
「おうちのお母さん」はこんな任
事をもつていられるでしょうか
よつて包んでくれる母でもあ
影によって、雲の動きを○倍
から百倍の早さで見せ、面白く
見せてくれる學術映画)下
★「日報二ユース」一三
号)全般向(○県選抜卓球選
手権大会)のソ連代表部チーフ
シンスキー氏来県(○飯沼内
スキー場)④日報スキー学校) 佐
新・上・中
★「食中毒」二分、小学
生中年以上一般向の保健衛生
(集団中毒の発生に、その原因
調査のための保健所員は活動する

